

貴志南っ子

2月

平成31年2月1日

「むか～し、むかし・・・」

- ◇先月、熊本県の公立小学校の教務主任の椿原正和先生という方をお招きして5年生59人に国語の授業をしてもらいました。この先生は、国語の活用力を劇的に上げることで有名で、本も出版されています。
- ◇本校の子どもたちは、ふだんの単元ごとのテストではよどみなく解答できます。しかし、6年生の全国学力学習状況調査、いわゆる全国学テの長文の問題を読み解くのに苦労する傾向があります。そういえば、ふだんの学校でのテストのうち、学期末のまとめのテストについては初見の文章を読んだ問題なので苦手な子が多いと他学年の担任の先生もよく言っています。
- ◇毎年、職員で子どもたちの解答結果を分析するのですが、特徴としては、漢字を記入するとか当てはまる言葉を選ぶなど問題文が単純で短いと全員に近い子が解答できるのに、後半の長文になると読むのに時間がかかるのか、誤答率も無解答率もぐんと上がります。
- ◇質問紙調査では、「最後まで解こうとがんばった」の率が高い反面、「時間が足りなかった」と答える子が半数以上います。つまり、傾向としては素直に1問目から順番に解いていって、丁寧にしっかり答えた挙句、最後はじっくりとやりとげる時間が足りなかったという傾向です。これは算数の活用力を問う長文問題も同様です。
- ◇上の椿原先生は、特に説明文の読み解き方のノウハウを全国学テの過去問を使って教えてくれたわけです。
- ◇この試みは貴志中学校区の小中学校の先生たちで共有して今後の指導に役立てようとしたのですが、市内だけでなく大阪や橋本市の先生、高等学校の先生、教育委員会からも授業参観の依頼がありました。最終的には130人を超える参観者に本校の子どもたちが囲まれました。
- ◇2組合同で、教室でなく体育館で、会議机とパイプ椅子。そしてこれだけの先生たちに囲まれても臆することなく発言し、集中して話を聞ける子どもたちはさすがでした。
- ◇子どもたちが帰った後、椿原先生による解説を含めたセミナーがありました。その中の「入学してくる子供たちの6割以上が桃太郎などの昔話を知らないというデータがある。お決まりの『むか～しむかし、あるところにおじいさんと・・・』は『いつ』『どこで』『だれが』『どのように』『何をした』の要素がきちんと入っている優れたものなのに」との話に「なるほど！」と思いました。
- ◇なおさら、子どもたちの読書習慣が気になり、このたびコミュニティスクール協議委員さんからの呼びかけで図書ボランティアを募ることになったわけです。今は本の修繕にもっばら取り組んでくださっています。
- ◇週1時間の図書の時間はしっかり確保し、のびのびタイムでも読み聞かせなどをこれまで通り行います。どうかご家庭でも読書の習慣がつくようご協力をお願いします。 < 学校長 >

